

43. コンピュータ診断を目的とした肝スキャンデータのファイルと統計的処理

金沢大学 核医学科

分校 久志 油野 民雄 利波 紀久

久田 欣一

金沢大学医療技術短期大学部

小島 一彦

2年前より我々は肝スキャンのデータ処理, スキャン返書の合理化を目的に, 肝スキャンデータのコード化および核医学外来における肝スキャン返書の80欄のコーディングシート化を行っており, その様式に関してはこれまでに報告してきた。

今回, これまでに診断の確定し得た約700例の肝スキャンデータについて, コンピュータディスクへのファイルングとその統計的処理を行った。使用したコンピュータは金沢大学医療技術短大部に設置されているHP 2100 (16K) システムであり, 各肝スキャンデータは8単位紙テープに変換後, 高速紙テープリーダーより入力しコンピュータ・ディスク上にファイルした。ファイルは6項目の個人識別データ, 5項目のスキャン識別データ及び35項目のスキャン所見および診断データより成っている。ファイルは QUERY/2100 システムにより50項目までのデータ項目の組み合わせで同時検索が可能であり, 各データに関し6種, データ間に関して2種の論理結合子が使用可能である。同時に作表プログラム及び統計処理プログラムにより検索データの作表, 統計的処理も容易である。このファイルより肝の形態, 大きさ, 欠損, 肝脾R I 分布, 診断名等のデータ項目を基に所見およびそれらの組み合わせについて検索し, 各項目の疾患別出現頻度, 疾患分布等 (sensitivity, specificity) を算出した。また各疾患におけるスキャン診断の適合率も算出した。さらに現在我々の用いているコーディングシートの問題点についても検討した。

44. RABUPORT: 電算機による放射線診療レポート作製システム, とくに核医学レポートについて

東京大学分院 放射線科

町田喜久雄 林 三進 亘理 勉

赤池 陽 小山 和行 平川 賢

越ヶ谷市立病院

安河内 浩

核医学診療の効率向上化の目的の一端として, 核医学診療レポートを, 電子計算機を用いて, 作製するシステム RABUPORT (Radiological Bunin Report System) を開発した。

電子計算機は TOSBAC-40 (time sharing system) を用い, 通常端末装置にキーマットエディター (DTZ0008 A) を加えて, 医師が所見を観察しながら, 入力を行うシステムである。

患者名, レポート番号などを入力し, ついで, procedure, interpretation, diagnosis, recommendation の順序に, 文章を選び, 必要な単語を入力する。最後にプリントの命令を出すと, レポートが自動的に各患者毎に必要な枚数ずつ英語で作製されて来る。

また本方法の特長は, 文章, 単語などのコンピュータへの入れかえをきわめて容易に作ってある点である。これは日常経験を生かして, 迅速に核医学の進歩に対応したレポートをつねに作製可能にするために, とくに考慮した。

使用システム

